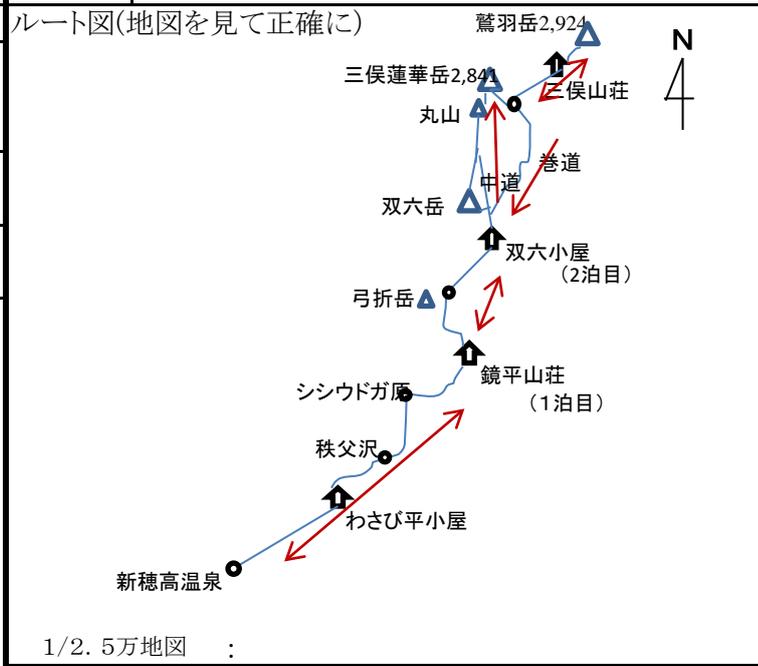


縦の木会(デンソー山岳部OB会)

7月度 例会 山行報告書		報告者;	佐溝直彦	参加 メンバー	CI 青山武 SL 油井武 佐溝直彦
山名		報告日;	2010/8/3		
山城	北アルプス	山行日	2010/7/27~29 (2泊3日)		

山行目的 北アの眺望と花や残雪を楽しむ

配布先
参加者;
PC又は
郵送にて
原紙;
会事務局
HP作成;
大矢



コースタイム
天候:27日 晴れ 28日 晴れ 29日 雨
27日 刈谷発4:00~新穂高温泉7:50-8:30~
~鏡平山荘14:25(泊)
28日 山荘発 3:50~双六小屋6:35~中道~
三俣蓮華岳8:50~三俣山荘9:55-0:15~
鷲羽岳11:25~三俣山荘12:30~巻道~
双六小屋15:45(泊)
29日 小屋発5:05~鏡平山荘7:00-8:00(双六小屋主人
小池氏に会いご挨拶)~わさび平小屋11:00-11:30
~新穂高温泉12:30下山
中崎山荘で☺
新穂高温泉発14:10~刈谷帰着19:10

1/2. 5万地図 ;

<山行記録>

梅雨明け後の快晴日が続く中、シルバー3人は新穂高目指す。バスターミナルはシャッターが降りたままで付近には人影少なく閑散としており昔の賑わいが懐かしい。身支度し登山届を出し、左俣林道をわさび平へ向う。秩父沢は3日前に橋が架けられたので雪溪の高巻きを避けられた、シシウドヶ原から一頑張り鏡平へ。池端のテラスに腰を下ろし、槍穂高の雄姿を飽きずに眺める。体調も良く天気も期待できそうなので明朝早発ちで鷲羽岳までアタックする事に全員一致で決めた。漆黒の闇の中、久し振りにランプを点けてガスの中を弓折分岐へ、双六小屋への尾根道は花と雪渓が我々を歓迎してくれる。双六小屋でコース確認・中道で三俣蓮華に向かう。たおやかな双六の稜線、一面の花畑や多くの大きな雪渓が見渡せ、北海道の大雪山系を思わせる。丸山に近づくとカールが見事な黒部五郎、バランスのよい薬師岳が望める、振り返れば槍ヶ岳が北鎌と西鎌尾根を従えて聳えている、まさに至福の天上ウォークである。程なく蓮華頂上着、目前に聳える鷲羽岳、左奥には水晶と最高の眺望にカメラ2台の青山カメラマンは大忙しである。三俣山荘めがけて駆け下り、荷をデポして空身で鷲羽に取り付く。70分であっけなく頂上に着く。眼下のエメラルドグリーンな鷲羽池、赤茶色の硫黄尾根、背後の黒い北鎌尾根の三者のバランスが絶妙！雲の平や黒部の源流を足元にしてまさに北アの中核部に居る事が実感できる。笠方面から広がり始めた黒い雲に急かれ、記念撮影を済ませて即下山、帰路は巻道で双六小屋に戻った、今日は12時間弱の行動だったが天候も味方してくれて充実の一日であった。最終日29日は雨とガスのあいにくの天候になったが下山のみでありコケない様に注意して無事元気新穂高温泉に辿り着いた。途中の鏡平山荘では青さんの顔で、双六小屋主人の小池氏とご子息に会えて話が聞けて良かった、鏡平には紅葉の時期にも訪れてみたいものと思った。

<サブリーダー:油井 記>

久しぶりの夏山で雪渓群とお花畑群の多さに酔い痴れた山行であった。ことに青空と雪渓、緑の絨毯に咲くしなのきんばいの鮮やかな色のコントラストが印象的であった。また、高山植物の多さにメモとスケッチにおおわらわであった。

- * 秩父沢 一本かけた 仮橋で 雪解け水を 汲む手冷たし
- * さんかよう 雪渓尻に 群れて咲く 冷たい風に 暑さ癒され
- * 人や問う なぜそのように ほほを染め

こめつがさくらの うつむきかげん

* 吾よりも よわいかさねし 岳樺 幹たおれても 枝葉茂れり

<リーダー所見>

2日目の長い行程が成功出来たのは予定を1H繰り上げて4時前に小屋を発ったのがよかった。登山中の行動は早目を心がけて、余裕をもって行動する事が大切・と実感した。



鷲羽岳



鏡池と槍

確認
(リーダー)
青山武
作成
(報告者)
佐溝直彦